

1. 単元名「動物園から考える命について」

2. 単元の目標

- ① 動物の生態について調べ、獲得した知識を用いて、相違点について理解する。(知識及び技能)
- ② 何のために動物は生きているか、ヒトは生きているか、答えのない問いについて、考えたことを言葉や図を用いて表現する。(思考力・判断力・表現力等)
- ③ 全ての生命は尊い存在であり、いじめや人権問題についても理解し、今後の人生について考える。(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1)教材観

アドベンチャーワールドはたくさんの動物を飼育していて親しみ深い施設であるが、訪れ多くの人は生と死に向き合っていることを意識していない。そこで本単元では、「動物園から考える命について」を動物園から発信し、生徒たちに命の本質や共感力を育て、自分自身や他者、自然環境と調和した関係を築く基盤を提供できる教材である。今後の人生でさまざまな倫理的・社会的問題に向き合うための思考力と価値観を育てる機会となる。

情操教育を小学生～中学生の時期に実施することで、改めて「命の大切さ」に気付く機会を設け、「全ての生命は尊い存在である」ことを理解し、他者に対する尊重と思いやりの重要性を学ぶことができる。この教育を通じて、生徒たちはいじめや人権問題についての理解を深め、共感の力を養う。また、人間だけでなく、動物や自然界にも思いやりを持つことで、持続可能な未来を築くための価値観を醸成する。

生命の目的や存在理由について考えることは、思考力の向上につながり、生徒たちが自ら問題を解決し、新たな視点を発見する力を養う。

(2)児童観

昨今の日本では、中高生が動物や他者を殺傷する痛ましい事件が起こっている背景があり、情操教育の必要性が見直されている。この授業を受ける児童は、自然界や生命に関心を持ち、他者や環境に対する思いやりを持つことができる可能性が高い。この授業を通じて、より深い洞察力と価値観を養い、倫理的な問題について熟考する力を身につける。

(3)指導観

この授業を通じて、生き物と生命について考え、疑問を持つことを奨励する。

教材:アドベンチャーワールドでの年間の死亡数・出生数の資料

ブランドムービー

教具:ワークシート(事前事後の変化)

曼荼羅

方法:ゲストティーチャーからのお話(質疑応答)

アドベンチャーワールドへ来園して実際に5感で感じる

曼荼羅を書く 発表(振り返りによるアウトプット)

①命の有限性について

命の有限性に気付かせるために、「アドベンチャーワールドでの年間の死亡数・出生数」を示す。数として提示することで、生徒に驚きや気付き、疑問を抱かせる。

そして、「何のために動物は生きているのか？」の答えのない問いを通して、感じたことを話し合い、死生観や命の尊さの課題に繋げていく。学習前後での気持ちの変化、自分ゴト化を認識するために、現段階での問いに対する答えをワークシートに記入する。

②ゲストティーチャーからのお話

理解を深めるために、その現場で働くスタッフからの話を聞く。また、動物への興味や関心をさらに惹いて、自分ゴト化するために、質疑応答を経る。

③動物の素晴らしさに気付く

5感を用いて動物の素晴らしさに気付くために、アドベンチャーワールドに来園する。改めて動物の良さや、自分と動物の共通点などを再認識させるために、来園後にどのように感じたか、どんな時に感じたかなどディスカッションする。

その後、自分や動物を取り巻く全ての事象にフォーカスして「命を大切に作るアクションとは？」ということかについてディスカッションする。

④曼荼羅式に図字する

命の大切さ、他者と関わる喜びについて理解を深めるため、曼荼羅を用いて図字していく。曼荼羅の中心は最初は動物で、関わる人・物、環境などを図字していく。次に自分の命の尊さ、自分を取り巻く環境などに支えられて生きていることに気付かせるため、中心を自分に置き換えて同様に図字する。

なお、郷土の偉人である南方熊楠の思考法である曼荼羅を取り入れることで、繋がりや関係性を新たに発見させたい。

⑤発表(振り返り)

学習過程を自分ゴト化として考え、自分の将来像を考えるため、振り返り形式で発表していく。ヒト＝動物＝大切な尊い命と認識させるために、発表前にアドベンチャーワールドのブランドムービーを見る。その後、学習前と後の自分の気持ちに気付くために、改めて「命を大切にすることはどういうことでしょうか？」の問いを提示して、ワークシートに記入してから、振り返り形式で発表していく。

(4)ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

多様性:様々な命ある動物・生物がいることに気付く

相互性:生命の営みは繋がっていることに気付く

有限性:生命は産まれて死ぬ、限りあるものであることに気付く

公平性:命は1つで、それぞれ尊いものに気付く

連携性:動物種は違うが、みんな同じ命であること、価値観をもって尊重しあう大切さに気付く

責任性:自分の命が大切であることに気付いて、どんな風に行きたいか考えることで責任のある人生を選択する

・本学習を通して育てたいESDの資質・能力

未来像を予想して計画を立てる力

学んだことを将来に活かし、自分が今後どうして生きていくか選択していく

多面的・総合的に考える力

幅広い命に対して、様々な考え方、価値観を多面的に考える

コミュニケーションを行う力、他者と協力する態度

自分の意見だけでなく、他者の意見を聞くことにより、新たな発想に繋がり、新たな気づきを生む

つながりを尊重する態度

同世代だけでなく、違う種の動物に対して考えることで、つながりを意識して、それぞれが尊い命と気付く

・本学習で変容を促すESDの価値観

世代間の公正

命のすばらしさ、尊さを次世代に繋げていく

世代内の公正

自分達だけでなく、他の国の人に置き換えた際に、自分達に何が出来るのか考える機会を設ける

自然環境、生態系の保全を重視する、・人権・文化を尊重する、・幸福感に敏感になる

自分だけでなく、他者や全ての命を尊重することを理解でき、自然環境に対しても感謝の気持ちをもてるようになる

・達成が期待されるSDGs

5ジェンダー平等、10不平等解消、16平和・公正

4. 単元の評価基準

| (ア)知識及び技能 | (イ)思考力・判断力・表現力等 | (ウ)主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ①動物の生態について調べ、同じ点、違う点について理解している。 ②学んだり、調べたりして獲得した知識を、言葉や図を用いて関係づけながらまとめようとしている。 | ①答えのない問いに対して、自分なりの答えを表現している。 ②動物や環境に対して日常生活で出来る取り組みや方策を、自分ゴト化して考えることができています。 | ①自分ゴト化して、自分の未来像まで考えるようにしている。 ②正解のない問いに対して、ヒトの意見を受け入れ、承認しようとしている。 |

5. 単元の指導計画(全6時間)

| 学習活動 | ○学習への支援 | ○評価・備考 |
|--|--|------------|
| ①命の有限性についてアドベンチャーワールドの年間死亡数、出生数を話し、動物園での動物は何のために生きているかを話し合う。 ・思ったより死亡数が多い ・何のために生きているか、考えた | ○命の有限性について認識するために、数として提示する。 ○答えのない問いに対して学習前後の自分の認識の変化に気付くために、ワークシートに現在の答えを記載する。 | イ① (思表) |

| | | |
|--|---|--|
| <p>ことがないので正直分からない</p> | | |
| <p>②ゲストティーチャーからのお話 ゲストティーチャー(飼育スタッフや獣医師)を招いて、動物を飼育している人の思いを聞く ・こんな熱い思いで仕事しているのは、素敵だな</p> <p>③動物の素晴らしさに気付く アドベンチャーワールドに来園し、観察やふれあいを通して、動物と私たちの同じ点、違う点について話し合う。 ・動物の見方が変わって、新たな知見で物事を見ることが出来るようになったと実感する</p> | <p>○理解を深めるために、その現場で働くスタッフからの話を聞く。 動物への興味や関心をさらに惹いて、学習意欲を高めるために、質疑応答を経る。</p> <p>○生物の多様性や、命の温かさを5感を通して感じるために、アドベンチャーワールドに来園する。 動物と自分との相違点を調べるために、観察やふれあいを用いる。</p> | <p>ア①② (知技)</p> <p>ウ② (主体的)</p> |
| <p>④曼荼羅式に図字する 相違点やお話を聞いて、命を大切にすることは、どんなことか話し合う ・動物中心の(関わるヒト、モノ、コト)曼荼羅を書く ・自分中心に置き換えて曼荼羅を書く</p> <p>アドベンチャーワールドのブランドムービーをみる ・ヒトも動物も同じ生き物で日常を支え合いながら、生きている。</p> | <p>○命の大切さ、他者と関わる喜びについて理解を深めるため、曼荼羅を用いて図字していく。 動物→自分の順番で曼荼羅を書くことで、自分の周りにも多くの人に関わっていて、支えられて生きてることを想起させる。</p> <p>○動物もヒトも同じ尊い生き物であることを認識させるために、ブランドムービーをみる。</p> | <p>イ① (思表)</p> <p>ウ① (主体的)</p> |
| <p>⑤発表(振り返り) 命を大切にすることのアクションを感じたことを振り返る形式でアウトプットする ・自分も社会を支え合うために生きていきたい</p> <p>曼荼羅の中心を社会に置き換えて図字する</p> <p>「何のために動物は生きているのだろうか？」の問いの提示に、現在の答えを記入する</p> | <p>○「命の大切さ」、「他者と関わることの喜び」などを可視化して自分ゴト化させる(再認識しやすくする)ために、感想を共有する振り返りにする。</p> <p>○自分の関わりが社会に影響を与えることを実感させるために、(動物→自分)→社会の曼荼羅を書く。</p> <p>○学習前後の自分の認識の変化に気付くために、ワークシートに現在(学習後)の答えを記載する。</p> | <p>イ①② (思表)</p> <p>ウ①② (主体的)</p> |